京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年……
本紙一枚金三錢　一ヶ月前金……
發行兼編輯人　高木久一郎
印刷人　松久靜一
發行所　京城西小門　京城新報社
仁川支局
東京市京橋區南佐柄木町七番地　東京支局

群山假道中記

不便　山雲東帥生

臨益水利組合長
藤井寛太郎氏の談

臨益組合長藤井氏は、水利組合組織の當時及び經過に就いて、謙虚自己の功を誇らず、諄々として事實に據る說明を與ふる態度を餘り、更に語を續けて曰く

當時當初不肖の身を以て組合長の任に就かんとしたる當時、一人窺かに考慮しました、同時に自分は一の信念を得て決然起ち、非才をも顧みず局に當るの意を決しました。

と云ふは外でも無い、曾つて私は之れ人に聞いたが、九州筑後の國に昔時一篤志あり、大土工を起すに際し先づ某工事現場來人仰ぎ見る處に一基のハリツケ臺を建て、若し豫期の工成らずんば、進んで自ら之に上らんと聲明し、以て自ら戒め人を警め遂に其大企圖を遂げたといふ事があります、夫れと是れとは事を異にすれど、彼の佐倉宗吾の如き、農民塗炭の苦を救はんとして、遂に其身を殺した。

是等に比すれば元より其倫を失すれど、假りにも百町歩内外の一小池を擴めて一千町歩となし、周圍實に八里に余る貯水區域内に、坦々として連なれる九百町歩の耕地をば、一朝湖底に葬つて幾個の村里を亡ぼし、そこに新に漫々たる水を湛ゑんとするに就ては、其貯水區域内の地主小作人は數百年間土着の情として、必ずや極力反抗憤怒して組合の計畫乃至工事に對し、障害紛擾暴動等を起すべきは一面の人情として已むを得ざる處、隨つて或る場合に於ては責任の局に當れる自分として、或は生命に關する危害を受けぬとも限らない、且つ又組合の設計を實行せんには、貯水地域内に存在せる耕地は是非とも各地主の手より組合に收容しなければならぬ、處で其買收容の相談が順調に運べば何でも無いが何分多數の地主の事故中には甲は應じても乙は應じない場合もあらうし、若し一人でも應じないとすれば設計の實行が出來ない事となる、されば組合は其設立の意義目的よりして、如何にしても之が收容をしなければならぬ、斯る次第で中途必ず容易ならざる苦情も起れば紛議も起らう、斯くて自分は最大多數の利益の爲めには或場合に於て區々たる個人の我利的主張と衝突は免れぬ、然り最大多數の公利公益を主眼とし、社會的公共的道義的の信念理想を以て進まんとする自分は、極端なる利己主義は飽迄已むを得ず之を排し、之を犠牲としなければならぬかも知れぬ、こんな事からして、此事業を完成する迄には勢の趣く處當ならハリツケか砌頭、今だから或は一度や二度は多數の犠牲として、臭い飯位は食はなければならぬかも知れないと考へた、そうして充分熟慮の結果、自分は斷然覺悟を定め、中途如何なる事が起らうとも、大義を踏んで多數の利益の爲め犠牲となつてもやつて見やうと決心して、遂に今日に及んだ次第であります、が案じるより產むが安く、やつて見れば案外容易に仕事が出來て、四方八方が好都合に治まり、今となつては反つて力ぬけの氣味があります、而し之れも全く一般社會の要求に應じ、各人各個其必要を認めて直接間接に應援助力せられたる結果に他ならぬので、私は今後更に組合の積極的利用によつて公私の福祉を增進し、現在の過褒に對してせめて實質ある成功を贏ち得たいと思つて居る樣な次第で御座います

●神經衰弱の豫防（四）

（十五）下劑の注意　素人療治で無暗に下劑を用ふると身体の營養を害する事になる。下劑と云ふものは、腸神經を刺戟して大便を排泄する作用をなすもので、折角胃腸で消化した滋養成分を無駄に流して仕舞ふのは惜しい事でもあり、又隨分危險でもある、詰り營養を害して神經衰弱症になるので特に注意せねばならない。

（十六）房事の注意　房事過度から神經衰弱を惹起す事は前にも說いて置いた何故房事過度が神經衰弱の原因になるが、此れは精液の減損から起るのである、精液は其中に含んで居る精蟲と女子の卵と合して分体繁殖を遂げるばかりではない、身体の重用な營養作用を營む上に於て、極めて大切なことである、其の大切な精液を濫用するのであるから、身体の疲勞を起し神經衰弱に陷るのは理の當然と云はねばならぬのである。

（十七）手淫の注意　此れも神經衰弱に多大の關係のある事は原因の表に依つても十分解つた筈であるが、神經衰弱の原因中で第一に指を屈すべきは此の手淫である。歐州では睡眠時に生殖器を弄ぶ少年に手袋を嵌めさせ其の手套を寢臺に結附けて防ぐと云ふ事だ、獨逸などでは、學校衛生取締法として机の形まで工夫して居る、そして學生の下肢の一部を教師席から見ゆる樣に作つてある。授業中學生の手淫を防ぐ用意である。

其二、精神勞役の注意

漢法醫者も久しく視れば血を傷る久しく臥せば氣を傷る、久しく座せば肉を傷る。久しく立てば骨を傷る、久しく行けば筋を傷る、悲めば即ち氣消ゆ恐るれば即ち氣下る、憂ふれば即ち氣亂る、勞すれば即ち氣耗る、思へば即ち氣結ぶと云つて居る。

世の中の進步複雜になるに從つて、精神勞役の部面も廣くなり自然込入つて來るものであるから、人知れぬ苦勞もあり心配もある、勞働上の苦勞は一時に來るだけ一時に恢復するが、精神上の疲勞は徐々に來るだけ恢復するにも永い時間が掛る。

精神の疲勞は精神、即ち腦神經の疲勞で、神經は休息して居る間は、アルカリ性又は中性であるが、働いて居る間は酸性を呈する、筋肉の疲勞するのは、筋肉中に遊離燐酸を生ずる爲めで神經の疲勞する時も、其う云ふやうに何物かの毒物を生ずるであらうと云ふ事は爭はれぬ事だと云はれて居る、本を讀んだり、文章を作つたり其他思慮を費やす事が持續すると、精神に一種異樣の感覺を起して來る、健康時は其の感覺を押通す事が出來るが、押通す事が出來ない事がある、其んな時は大概神經衰弱症に罹つて居るか、又は餘程腦神經の疲れて居る時である。

文苑

◎次韻陽館吟筵之分韻寄井蛙詞兄　加藤游霽

原韻

醉來占斷玉樓春。蝶舞鶯歌興更新。別有詩壇吟咏事。拳花墨畫間佳人。

詩壇春酒賀有客。……百……君。……自在……。……不井蛙與谷人。

召使れ初　黙法師



第九十回

「奥方御意、澤野乃の宣を待兼ぬるまでござります、假へ遂に御訴へ致る事なさりまずるも、一應の御詮議だもあらせられず、御捨て置きなさせらるるが、れ家御風儀でござりまするかな」

「兩うでは無いが、道の身については私に存じの旨もあるで、當分捨て置き此後模樣を見やう心ぢや」と奥方は寄らず觸らぬ御挨拶なり

「れ詞を返しては濟みませぬ、た詞を返すは恐しうも心得まする、されど恐ふ事申し上げねは、御奉公の冥加とも心得ませぬで、押返して言上、御意に悖る罪科の深きは、追て御處刑を待ち參るでござります」と澤野は詞に力を入れ、「れ道樣れ文の一條、其儘爲させられては濟りませぬ」

「飽くまで詮議爲と云ふの」

奥方の聲は鋭かりき、澤野の執拗く申し上げるを、深く心に含ませたる樣なりき

「御法度を亂させられぬは、御政道の極意と承知、賞罰を明かにしたまふはた家御譜の神の御心と存じでござります」

「そなた、さほどに云ふとなりや私が自ら詮議する」

「を、御前樣……」

澤野は流石に驚きたる聲なりき

「捨置くも要ない、れ道をこれへ……そなた細尾その他年寄中年寄等なこの席へ立ち合ひわるぢや」

「心得でござります」と澤野は得意顔に云ひ「れ次の衆は無いか」

「これにござります」

三の間の襖の端に手を支くは、執次役の松浪なり、澤野は此方を向き直りて、「御前樣御錠、れ道どのに御詮議の筋ありて御召させ、細尾どの同道一刻も早くこれへ出るせられるやう、きつと御口上傳へ參れ」と嚴かに云ひ渡す

執次役は心得て引き退る、引き違ひて膝行り出でしは中年寄若江なり、彼女はれ詰所にありて、松浪口上の次第を聞き取りたるものと思し

「恐れながら申し上げます」



「誰ちや」と澤野は故意とらしく呼び掛け「誰ちや」

「若江御訴訟でござります」

若江は二の間と三の間との取合せに平伏して、沈着きたる聲に云ふ

「を、若江どのか改まりて御訴訟とは……」と澤野は奥深き眼をきろつかせ

「それにて仔細仰せられ、れ執次申し上ぐべき儀は、澤野より言上致すでござる」

「譯の儀にてもござりませぬ、先日御前樣御手に入らせられたれ文……れ道どの御名記されたる奇しいれ文、彼儀に就き、深く聞き込んだことござりまするで一應御訴訟……御前樣へ御訴訟申し上ぐも仔細でござります」

「何事かと思へば、れ道どのれ文に就いての御訴訟とござるよ喃、それならばれ取上げでござりませぬ、實は只今、澤野仰せを承はつて、これにれ道どの御詮議の端を開くでござります」

「その事只今餘所ながら承はつて、取る物も取り敢ず參上致したでござります、何人より什麼なる事言上致しあるか存じござりませぬが、彼のた文、れ道どの御存じない事、他に歸人……きつとした歸人、あるでござります」

澤野の面の色は見る〳〵間に變り來りぬ

京城新報

本町道路の擴張（二）

京城の市區改正をなすと假定し、吾人は實状に照らし、歴史に鑑み、民團發達に貢獻せしことの大なるを思ひ、向後周圍の形勢に顧みて、第一着に市街改善の利益を蒙むるの資格を具備せるものは本町通一帶の地區なりと云へり。

今之れが理由を擧ぐるに先だち、本町通り道路の擴張を歡迎せざる者の誤謬を正しをかざる可からず、彼一輩の者は七八十万圓の借款を起してまでも之を實行するの必要あるか、況んや民團の存否さへ不明なるに京城の居留民が一泥艱繁榮傾位の犠牲となり多大の借款を負擔するは全く理由なしと云へり、吾人は本町通道路擴張の急を叫ぶ者にして、其目的が達せんが爲めに、經費の全部を悉く民團の負擔に歸せしめとするが如き僻見を抱くものあるを聞かず。縱令斯る蟲のよき事を夢みつゝある者ありとするも民團の起債は民會の決議を經て監督官廳の許可を受くるにあらずんば之を爲すを得ず、殊に民會にては滿場一致の決議に因り、市區改正の急務なることを其筋に建議しをるを以て、若し市區改正に關聯せる問題を議することあらんか、必ずや慎重なる審議を盡し、民團全体の利害を無視するが如き事なきは其職責に顧みて之を知るべきのみ、然るに此觀易き理路を辿らずして、根據なき借款説を掲げて俗耳を惑はさんとするは是れ實に世人を愚にするものゝ也。更に說者が民團の存否問題を捉へて市區改正問題に附着せしめんとするに至つては、吾人寧ろ說者の無謀なるを憐れむ、市區改正決して民團の事業と限られたるものにあらざるは具眼の士齊しく之を解す、民會の市區改正建議も蓋し此理法より打算せられたるものなるを知らずや。說者の謂ふ所凡て如此、吾人茲に其主なるものに付て彼の妄を指摘せり世人も亦彼等に誤まらるゝことなきを信ず。

うも吾人が本町通り道路擴張を贊する所以のものは、第一に本町通なる地區が、京城に於ける内地人移住の端緒を開きし處なるを忘れざらんとするにあり、十數年前の泥濘市街即ち日本人居留地と呼ばれし時代の寫眞を見よ之を今日の殷盛なる本町通の有様と比較せんか、蓋し思ひ半ばに過ぎむ、而かも此時代より居を爰に定めし人々の惨憺たる苦心亦想察するに余りあり、加之ならず種々の事變に際會し、居留地の危殆に瀕せしこと屢々なりしも屈せず撓まず此中に處して終に現今の市街を形成するに至りし其間の歴史は、實に内地人の堅忍不拔を證し兼ねて海外に於ける國民發展の光輝を誇るものにあらずや。（次號完結）

東京電報（廿九日發）

▲英國に於ける東郷大將　英國皇帝陛下の戴冠式は二十四日擧行せられたる觀艦式を以て終了したり此式に於て東郷海軍大將は列國隨員中にて第一の待遇を受けたりと公電ありたり

▲韓銀券發行期　韓國銀行は八月一日より十圓五圓券を發行し從來の第一銀行券と倶に使用すと

▲國民黨と朝鮮師團　國民黨は朝鮮に二個師團增設に反對なすことに決せり

▲日獨條約公表　日獨通商航海條約並に關税條約は今二十九日午後二時發表さる

▲朝鮮師團編成方針　朝鮮に二個師團增設の件は既に確定せる處にして其經費は明年度豫算と共に經理局に於て編成中なるが其師團編成は内地十八個師團中より各中隊を拔きてなすべしと

▲伊國皇室に御弔電　伊太利皇帝陛下の祖母君に當らせらるゝカラチルデン殿下薨御あらせられたる旨公電達したるを以て　天皇陛下には御鄭重なる弔電を發せられたる由拜承す

▲日瑞條約批准期　過般調印を了したる日本と瑞西との居住通商條約は瑞西政府に於て七月十七日新條約期限滿了に付假施行の權能を既に議會に於て其協贊を受け居るを以て來る十月議會開會前批准交換を爲すに至るべし

▲濟生會寄附者　濟生會寄附金其の後の申込は左の如し尚累計は百二十一萬五千圓となれり

▲三万圓宛　田中市藏、廣岡惠三、竹尾治右衛門

▲一萬圓宛　小林林之助、志方勢七、八田兵次郎、木村權右衛門、今西林三郎、井上貞二郎

▲第三義勇艦建造　第三義勇艦は神戸造船所にて建造する事に内定し進水式は來年八月頃なるべし

▲各地の水害　去る二十三日の烈風豪雨の爲め各地に水害ありたり

▲戸山學校卒業式　今二十九日午前十一時陸軍戸山學校修業證書授與式の擧行に就き天皇陛下には午前十時半御出門同校に臨幸あらせられたり

▲柴田總裁歸京　柴田拓殖總裁今二十八日歸京せり

▲萬國市政會議　巴里に開催する萬國市政會議に付き我政府にも委員出席方交渉ありたるも今回は參列せしめざる事に決せり

雜報

●土木委員會議　二十九日午前九時より總督府に於て土木委員會議を開き寺内總督臨席山縣委員長以下倉富、木内、荒井、池田、宇佐美、小松の各長官明石總長小原局長阪出技師太田柴少將兒玉局長小城代理外波少將等事官の諸氏列席沿道並に市區改正問題案に付議する所ありたり

●憲兵隊長會議

▲第二日目の議事　憲兵隊長警務部長會議は前日に引續き二十九日午前八時より開會午前中は明石總長土木會議出席不在に付各隊長所管事務の打合會を開き午後より明石總長臨席昨日よりの訓示事項たる高等警察に關する訓示を爲し四時散會したり

▲總長訓示事項　明石總長三十日隊長會議の訓示事項は午前中保安警察に關する事項にして午後より一般の執務上に關する事等なりと

▲各隊部長の報告　憲兵隊長警務部長會議に列席中の各隊部長は二十七日より交々寺内總督を官邸に訪ひ管内情況報告中なりしが二十八日を以て右報告全部終了したり

▲各氏講演日割　各部隊會議に於ける國分高等法院檢事長の講演は來る二日（題未定）菊池殖産局長同三日（題未定）他は尚は未定なりと云ふ

●英領事の謝狀　本月二十二日我が同盟國たる英國の大典に際し我が官民擧つて熱誠なる祝賀の意を表し英國臣民と共に衷心當日の喜を倶にし且つ各方面に於て多大なる便宜を圖りたるに對し此の程在京城英國總領事代理レイ氏は極めて鄭重なる謝狀を總督府に寄せたりと尚は仁川在留英國人の祝賀委員たりしブラウン、モルトン。ベンチットの三氏よりも同樣の謝辭を述ぶる處ありたりと云ふ

●電信線路大革新　從來日鮮間の電信線路は釜山長崎間を主なるものとし其他の線路は未だ之れを專用するに至らざりしが其筋にては今般釜山長崎線を唐津にて切り下の關へ接續すると同時に去る廿六日より左の如く大革新をなし非常に通信の敏速を圖ることゝなりたり

一、京城　大阪線
二、釜山　下の關線
三、京城　下の關線
四、元山　松江線

以上の四線中第一線は平安北道京畿道及忠淸南北道よりするもの二線は全羅南北道慶尚南北道と日本内地及諸外國へするもの三線は一、二、四線以外の朝鮮と日本内地間及海外電報にて四線は北鮮方面より日本内地又は諸外國へ行く電報を發州松江に落すものにて京城大阪間の如き當地は大阪へ直通することなれば頗る便利なるべく一分間に二三百字を電通し得べしと云ふ

●地方郵便所增設　從來朝鮮内地の邊僻に於ける郵便は郷長に委託し其集配をなさしめ居りしが其後各郡の朝鮮人郡書記に取扱はしむることに改正し之れを郵遞所と稱し居りしも今般此制度を廢止し新たに郵便所を設置するの計畫にて目下着々進行し既に四十餘個所を設置したるが現在の郵遞所は全道に於て百八ヶ所なりしも全部郵便所に改め本年中に其の設置を終る豫定なりとす而して新設郵便所にては爲替、貯金、恩給金等の交付歳入出金受拂等の事一切を取扱ふに付き地方邊僻の面目を一新し公衆の利便を得ること至大なるべしと云ふ

●内地人所有地現狀　本年一月の調査に係る朝鮮全道の水田、畑、宅地、其他の野田總反別は二百七十三万三千七百二町四反歩にして此の内日本人の所有せる地所七萬二千四十五町六百歩あり之れを全反別に比例すれば二歩六厘の割合にて内地人所有地の最も多き處は全北の二萬三千五十町九百反歩、一割〇歩九厘、全南の一万五千七百十町七反歩、六分一厘、平北の千六百七十五反歩、一歩にて最も少なきは平南の四百八十七町六反歩、咸北百六十町八反歩なりと云ふ因に記す歩合の高は其道に於ける割合を示せしもの也

●國有未墾地利用規則施行　昨二十九日府令第八十一號を以て二十六ヶ條より成る國有未墾地利用法施行規則發布されたるが同時に國有未墾地利用法施行細則は廢止されたり而して本令は昨二十九日より之れを施行す

●收用令施行規則　二十九日府令第八十號を以て十九ヶ條より成る土地收用令施行規則發布されたり

●改良種收繭高　農商工部調査に係る本年度朝鮮全道に於ける日本内地より移入したる改良春蠶收繭豫想高約三千石增加せしと

●儆新學校講習會　京城蓮洞私立儆新學校にては來七日より朝鮮全道に於ける各種私立學校朝鮮人教師を招き夏期講習會を開催せんと目下夫々準備中なり

●新韓民報の禁止　米國桑港北美大韓人國民會に於て發行する新韓民報第二三三號は治安妨害として發賣頒布を禁止さる

●國語の普及　京畿道に於ける國語普及の狀態に就ては日本人の發展に伴ふ日鮮人の接觸は勿論なるも一面學校教育に依る普及及び社會教育とも云ふべき所謂夜學會等よりする普及も又甚大にして學校にては平均一週間に六時間自至十時間の國語教授をなし居れるが公私立を合して二萬二千三百人、然して夜學會等にても毎夜二時間乃至三時間の教授をなし會員千七百五十三名なりと云ふ

●議員の選擧　京城商業會議所にては三十日議員の選擧を行ひ選擧委員長は高橋府事務官選擧委員は山口太兵衛、中村再造、林田金次郎の三氏なること既報の通りなるが當日は午前八時より正午まで一級午後一時より同四時迄二級選擧を行ひ一、二級とも改選六名新增議員四名を選擧す

●仁川商議員辭任當選　去二十六日仁川商業會議所議員の選擧に際し二級當選者萬玉岩吉氏及一級當選者漢城共同倉庫會社仁川出張所共に辭任せしより二級には仁川電氣會社一級には内國通運會社仁川出張所當選することゝなれり

●道路擴張期成會　當地梶原、田村、釘本、淵上、進氏等の發起にて此の程本町道路擴張期成同盟會を組織せんと去る二十七日第一回の會合をなし本町一丁目より九丁目に至る居住者にして現に土地家屋を有する者三百餘名を勸誘し傍ら會議所議員及民團議員の贊成を得んと目下前記發起人等は東奔西走中なるも何分會議所議員の選擧を眼前に控ての事なれば當今不能の如きも來る三四日頃迄には發會式を擧るに至るべしと

●民團の戸口調査　去る十八日より引續き實査中なる京城民團の臨時戸口調査は着々進捗し最早半ば實查濟みとなれるが民團より配布したる調査票は二萬五千餘票に達したるが假に一戸平均二人三分とするも五万七千餘人となる割合なれば終了の上は六萬人を越ゆべしとなり

●京城教會說教會　既報の如く同教會は大演說會に續き一昨二十八日より同教會に於て海老名牧師一行の說教あり同日午前は十時より婦人會あり會衆約百五十名長田牧師の女性の天職海老名牧師の女性の福音と題する講演あり何れも熱心に靜聽し靈氣に溢れて散會、夜は八時より說教會あり定刻前より群衆詰めかけ滿場立錐の餘地なく三百名余に達したり長田牧師は靈性の要求と題し海老名牧師は天父の愛と題し諄々說き去りて會衆に多大の感動を與へ即夜信仰の決心を爲したるもの二十名に及びたりと昨夜も前夜と同じく盛會を呈したり今夕の演說及講師左の如し

神子としての耶蘇　渡瀨牧師
基督教の根本眞理　海老名牧師

●中尾中將入京　水路部長中尾海軍中將は二十九日午前八時〇五分仁川發列車にて入京せり

●國分檢事長歸任　南鮮各地の檢察事務視察にして久しく出張中なりし國分高等法院檢事長の一行は此の程歸任したり

●李王妃の女學校御成　李王妃殿下には三十日午前十時昌德宮御出門官立高等女學校に成らせらるべしと云ふ

●各隊部長を招待　柴參謀長は二十九日午後七時より花月樓に明石警務總長、山形中佐及各隊部長を招待し盛宴を張る筈

●國分檢事長の招宴　國分檢事長は來る二日午後六時半より入京中なる各道警務部長及び警務總監部の各課長を花月樓に招待すると云ふ

●中村檢事長の招宴　三十日午後六時より中村控訴院檢事長は各道警務部長及警務總監部の各課長をソンタクホテルに招待す

●慶南の麥作　慶尚南道本年度麥作は昨年に比し最も良好にして今日までの調査に依る收穫豫想高五十三萬二千三百〇六石にして前年に比し約一割六合の增收なりと

●濟州島の鰯漁　濟州島沿岸は今月上旬より鰯の密漁期に入り去る九日十日の兩日には約六千圓の漁獲ありし由にて其後天候不良の爲め思はしき漁なきも近年稀なる豐漁なりと

●李伯趙子昌德宮伺候　李完用伯趙重應子は廿九日午前十一時昌德宮へ伺候す

●仁川民長上京　仁川民長岩崎直英氏は二十九日京城に上り即日歸仁す

●中村技師の着任　新たに礦床調査のため農商務省より聘されたる礦務課の中村技師は二十八日着任せり

●施本「致富と敦德訓」　當地校洞にある農林講習所講師式田濟三氏は農民報德教の趣旨に基き「致富と敦德訓」と題せる菊判五十頁余の書を著し自費にて刊行希望者に無代配付をなすべきが尚殘部ある由にて望みの者は校洞農林講習所内の同氏に申込むべしと

●平壤の中學校問題　同地に中學校を設置せんとの議は早くより同民團當局者の間に唱導せられ居る問題なるも經費の出所なき爲め之を實行する能はず爾かも其必要は高等女學校設置問題以上に痛切なるを以て種々考案の末之の上は官立又は道立とするの外なかるべしと屢々監督官廳に對し其内意を叩きたるに何れも其意を諒とし居れるを以て民團にては早晩之れを監督官廳に提議すべき手筈となり居れる由なるが傳聞く所によれば松永道長官は七月初旬開催の道長官會議に出席の序を以て本件に關する總督府の意嚮を質す筈の由にて到底今年度中に設置の運びには至らざるべきも明年度其設立を見るに至るべきかと

車中より　山水道人

今朝乘車釜山を發し申候。車中會するもの前大邱民團議長岩瀨靜君、報知新聞釜山特派員海部天南君。岩瀨君は固そうな唇を重く動かししやがれた聲を絞りながら。「釜山には豪い人が多い樣だが案外ケツの穴が小さ過ぎる。海陸連絡の一大要港と誇負して居ながら新道路などあんな遣り方でどうする氣だ、折角遣つた幹線道路に復線電車が通らぬ樣では一体何ですら、十年も立たぬ内又候市區改正ヤレ道路擴張と大騒ぎするのは見え切つて居る。」自分も暫時大邱民團の世話をしたがイヤハヤ道路問題などと來ては御話にならぬ連中ばかりサ。二十間の處は十五間十五間は十間と只モー狹くする事ばかり考ねて居るそれで五年か十年經てば又やり直しの二度手數。地價も上れば工費も上るそこで費用は三倍四倍。目前の慾に長い算盤では結極の大損。何時でもこんなものを悟らないのが情け無い。一体市區改正や道路問題などに就ては須らく大陸無人の大曠野に。假りに自分が一大都市を建設するのだと假定して。大局の利害を察し徐ろに百年の大計を建てねばならぬ。此處らになると日本人の量見は全体小さい。チト放膽な露西亞式でも學ぶが好い。と云つて露西亞式も物によりけりでチ」と苦笑一番論鋒一轉

「京城新報の在鮮民間有志論功行賞の主張には余輩も頗る同感だ。と云つて何も自分では欲しくも無い。言ふものは云はん民間の奴等は隨分勝手な眞似をした揚句、行賞などとは贅澤だと。成程少しはアブク錢を儲けたかも知れぬ。然し夫は[illegible]未だ入費に過ぎず。日本人として生命財産の確保を得ない異郷に入つて。不安と危險の境に處する一種の戰鬪と云つてもよかろう。何も君子ばかりの世上ぢやあるまい。理窟を云へば官吏も穴勝ち職務外の特別勤務と云ふでもあるまい。やつぱり食ふて行ける丈けの月給も手當も貰つて於いて當然の責務を盡したに過ぎぬとも云へる。そこで十年二十年朝鮮に止まり殖民の先驅として。生命財産の不安危險と戰ひつゝ。日韓關係の楔子となりし居留民に對し。果して何人か日鮮關係の今日あるべき大勢の促進に無關係と云ひ得るか。

公人私人

▲吉弘庚（全北道警務部長中佐）二十八日山本旅館
▲中村新太郎（技師）同上
▲柄綱宗一（水產會社取締役）同不知火
▲片山敬太郎（釜山民團庶務課長）同上
▲趙義聞（黃海道參與官）同上
▲乘杉嘉壽（關東都督府秘書官）同天眞樓へ
▲水谷千萬吉（海軍大佐）同平壤行
▲和田世民（高知縣事務官）同上
▲田中政治郎（技師）同上
▲渡邊庄治（土地調查局監查官）同大邱行

▲京城手形交換高▼

六月	金高	枚數
廿九日	二二六、七八五、三五〇	五〇二

▲茶袋▼

或人本町取擴げ問題に關し其所見を述べて曰く、本町は過去居留地時代の遺物であつて、今頃其繁榮を維持せんが爲めに大金を投じて、街路の取擴げなどをするのは愚の極だと、思ふにコンナ理屈を捏ねる者に限つて新マイか然らざれば無財產の輩だ▲考へても見玉へ、若しも或人の云ふが如く本町筋の街路を現在の儘として置いたならば、ドーか數年ならずして交通の關係上今の本町の繁榮は他の方面へ移る、其曉には當の本町筋は勿論舊居留地區域の地價は一體に下がる、此を思ひ彼れを思へば本町筋取擴げの問題は舊居留地區域の死活問題である▲大聲疾呼的に云へば京城在留内地人過去三十年間の粒々辛苦の結果は、其著しき部分が、舊居留地内の不動產となつて居る、さればこう、若しも本町取擴げが出來ずに了つて、地價が下がつたとすれば、三十年間粒々辛苦の結果は罪なきに一朝にして消滅する▲ト愚痴許り云つて見たところで仕方がない、天は自らを助くる者を助く、ドーか舊居留地區域關係の人々等は決して他事と思はず、同心戮力して本問題の解決に盡すべしだ▲寺内總督には來月十五日頃歸東の途に就かるゝソウだ、シタが此次の歸任は何時頃か未だ判らぬが、其時は多分專任になつて來るのダロー。

▲京龍兩驛の貨客▼

▲龍山驛乘降客（廿八日分）
乘車客　二三七　降車客　二〇三
乘車賃金　一七五、三四〇
▲龍山驛發着貨物（廿八日分）
發送　九噸　着　四三三
貨物賃金　二七一、四四〇

仁川港出入船舶
▲大有丸　三十日大阪へ向出港
▲神代丸　同　同

京城藝妓の半生（四七）

花月の小達磨（一）

此の半生史に載つた藝妓衆の數も比較的少なくはないが一番多かるべき筈の花月、梛梁がチツカラ振はぬ、前者にすれば勝利あれ筆あり、後者にはい京あり梅助ありでれ若いのを除いても此れ丈は紹介する價値があるからと思ふて随分追ひ回したが「アレー助けて」と悲鳴をこそ上げねニヤ〜笑つて逃げ回る、此の上追ひ回したら警部署へ駆け込むかも知れぬ、若しも左樣した事になると一大事と諦めた振りをして居るので甘く手に入つたら順次御披露な仕つる心算であることを申し上げて置く却て此の方が興味があらう、と云ふのは當人から聞くと彼れと是れとは勸辯してなぞと妥協潛しくは泣きつかれる、すると元來が人好の記者、情に脆い記者、氣の弱い點の記者には斷り切れない場合があるが探つた儘を書く日に成ると其の面倒がないからである、併し此れは極秘密になすつて置いて頂きたい、小だるまは彼れは當京城では二度目の御披露で何分にもの返り新參宜敷れ引き立てを賜はりたいと申して居る、蓋い方は御存じの以前も花月から出て名も今の通りであつた、彼の原籍は長崎市八阪町五十三番地に父を太四郎さんと申し侍り彼れは其の二女にて侍る、姓は中尾名はこと女當年二十六歳にて候也である、却々の精力家で頗る辣腕を有して居るから此の妓に掛つたら夫れこそ事である忘れられ〜なく成ると云ふ、酒が大好物の酔へば忽ち誰れでも闘はぬ其の膝へ凭れる頗る甘つたるい調子で「堪忍して頂戴よ、妾しや酔ひたいの酔はなきや此の胸がね」と二重瞼の眼をウツトリさせて「ね、貴郎や」と來る、氣の早い連中は「惜こう御參なれ、道理で昨夜の夢見が善かつた」なかさ悦に入る、處が甚だ御愁傷さまな譯合で決して左樣したのでないから恐れる、或る人も此れを食へて思はず「ツツとした」と云ふ叱叱してかと問ひ返すと「ナアニ」と腮を撫でゝ居ると云ふ始末、此れに依つて其の猛烈さを判斷して頂きたい、而して其の「妾しや醉はなきや此の胸が」の因縁は追々と判明な仕つるから目長く御覧を願ふてとして扨て、彼れが初度の京城入は明治三十八年の九月であつた、當時の花柳界の繁昌と云ふものは實に大したもので花月、梛梁は實に大官將校連の御用料理屋の觀があつて又一人として藝妓を最負にされぬ人は無かつた、謹嚴なることと彼の如き長谷川軍司令官も事實の有無は措いて花月の五郎とは浮名を流された位であつたに徴して其の盛況を推すべきである、京城に居る男にして藝妓の玉帳に其の名を止めぬ程の意氣地なしは人間扱ひを受ける資格がないものとされたのであつた、此所に其の長谷川將軍の副官に、故陸軍大將山口素臣子の養子に山口十八氏と云ふのがあつたと記臆せよ。

●日婦韓夫を脅かす

原籍佐賀縣佐賀市久保田村士族原田よし（二八）は數年前仁川に來り一昨年の春京城に來りて花町筑後亭の仲居に住込み居たりしが緣は異な者の譬に洩れず新町飲食店叙亭の使男の李元淳と云ふ韓童に見惚れて例々秋波を送りしかば李も又惡く思はう筈なく目出度目出度合併は成立したのでよしは李の實家新花開洞に鎮座し居たりされはよしも大部の貯金は李の爲めに費消したるか特に十圓五十錢と云ふ金は現金にて李に貸與しけるに何日しか合併條約にゴタ付が出來て去月離婚し仕舞ふ事となりよしは獨り淋しき佗住居を花町二丁目末永吳服店の貸長家の一隅になし居たる處同じ長家に原籍靜岡縣加茂郡上月原村の大工職松下兼吉（四五）と云ふあり互に朝に晩に顔見合せては獨身ものゝ不便さを語りつゝありしに去二十六日の事夫婦の契りは結ばれたるより二十七日夜よしは先夫の李の許に行き曩て貸與し置きた金を返せとて嚴敷督促に及びけるが李は元より夫婦の交情で居た際の事なるにまして今は返すべき金はなしと云ふによしは忽ち亂暴を始め今の夫の商賣用の鉈を懐中より取出し三斗入の醤油瓶を打毀し尚ほ竈にかけありし釜を毀す騒ぎに仲裁する人あり醤油と釜はよしが辨償する事貸金は日歩を附して返濟する事に落着けたり

●蠅取器着衣に化ける

原籍熊本縣熊本市坪井町三番地平民廣野德次（二七）は當時龍山觀町硝子商北原伊三郎方に雇はれ眞面目に働き居たるより主人の信用厚く去廿六日の如きは蠅取器三百六十個を京城の得意先に賣却し同代金受取りに出張すべきより主人は自分の衣服を着用せしめ見惡からざる服裝せしめたるより德次は喜び勇んで出掛け行き前記代金二十一圓を受取り歸途惡心を起し其儘仁川に到り花房町菊屋旅館に一泊し某吳服店よりセル單衣を新調し歸國せんとて廿七日午後四時仁川出帆の神代丸に搭乘したるが坂下今井の兩刑事は彼れ德次が菊屋にて衣類を新調したるに目を付け早速同船に出張し取調べたる處前記の事實自白に及びければ本署に引致し昨二十九日檢事局送りとなる

●嬰兒壓殺後聞　龍山

神明町三十九番地手塚源三郎方同居寄木わさ（二三）が嬰女を壓殺せしとは昨紙報道せる處なるが尚探聞する處によれば昨四十三年十二月郷里山口縣沖浦村より同人の姉カメが前記源三郎に緣付き居るを便りて渡鮮せしものにして同居中義兄たる源三郎と淺間しくも不義の私通をなせし結果懐姙本月十六日分娩せし女兒を布片を以て壓殺し旭川へ放棄し素知らぬ体にて居りしを龍山警察署巡回の巡査に本月廿二日認られ死体を解剖に付せられ直に同人を拘引訊問せし結果産兒の處置に窮して可憐にも壓殺せしものなりと遂一罪狀自白せりと淺間しき限りにてぞ

●陰謀事件公判期

安明根外十七人の强盗事件は來る十日梁起澤外十七人の保安規則違犯事件は十一日に而して十二十三日迄兩事件引續き公判を續行する由にて辯護人としては强盜事件に大久保辯護士外日鮮辯護士六人保安事件に木尾大久保兩氏外鮮人七人なりと因に同期日は全然延期せざる由なり

●辯護士殺事件

本年三月二日夕刻水門洞警察分署管内に於て鮮人辯護士安育洙を殺害したるものあり最初犯人の手掛りなかりしより警察側に於ては寢食を忘れ捜査の結果訴訟事件に原因したるものなること判明し被告人として十三人檢擧されし事は當時本紙報の如くなるが爾來京城地方裁判所檢事主任にて取調中の處豫審終決して謀殺犯人として安鍾鎬安斗遠安秉直安秉洙安秉浩の五名起訴せられ安秉洙外七人は證據不充分にて免訴せられたり

●小倉病院長の篤志

仁川內洞二十二統五戸林榮國三男白龍（五）は二十七日龍洞道路にて遊び居たる折柄劉明根の荷車の車輪に觸れ手足を挫かれ數週間の治療を要する負傷をなしたるより早速小倉病院にて手當を乞ひたるに林榮國及劉は極貧の爲め治療代の支辨出來ざる身なればとて同院長は同人の全治まで施療する由なり

●懲役一ヶ年

廣島縣御調郡向島西村九百四十二番地當時住所不定山本角一事栗原米吉（三二）は本月九日午後二時頃旭町二丁目近藤繁男方に忍入り衣類外七點（代七十五圓）を窃取し龍山署に檢擧され、京城區裁判所に於て懲役一ヶ年に處せらる

●胃癌に効顯

あり胃腸炎、子宮病、健麻質に特効あると云ふ外用煉藥日光煉今回東京四谷區麹町十一丁目中尾壽久堂にて一手販賣を引受けたりと

●正誤

拜啓貴社本日御發行京城新報第七一四號雜報欄内記事中主家に放火すと題する記事は當家の出來事の樣御記載相成候得共當家には右の如き出來事は更に無之他より種々の問合を受候等甚だ迷惑致居候に付此全文を掲げ至急御訂正相成度候

明治四十四年六月廿七日

京城南大門外御成町　村上嘉四郎印

京城新報社御中

勸進帳を觀る

▽二十七日夜の壽座

長太郎の富樫押し出しも立派仕科も不可なければ調子が今一息太く成ば爽なりしならばと思はしめたり但し榮曜の餅の皮か、奥山の辨慶貫目も充分に調子も整ひたり上乘の出來總しが手に入つたものにて危氣なし長太郎の難は餘りに芝居をするにあり表情がトモすると態とらし、例ふれば「いかに夫れなる强力止まり候へ」で四天王の競ひ蒐らんとするに對し大紋の袖をハネて大刀の柄に手を掛けたる邊り極めて芝居臭かりき上手の手から水か、夫れは措き辨慶と番卒との問答辨慶の「委細承はり候、夫れは作り山伏をこう留めよとの仰せなるべし、誠の山伏を留めよとの仰せにはよもあるまじ」と詰め寄るを番卒の「昨日も山伏、三人まで切つたる上は」第二の番卒「誠の山伏とて容赦はならぬ」元へ「たつて通らば一命にも」同音に「及ぶべし」と大きく云ふを冠せて辨慶の「まて其の、切つたる首は判官殿か」身体を斜めに左足を前に右の手に掛けたる珠數の、サラ〜と音する迄に顔はせつゝ意氣込む富樫の上より押し冠せて「ア、ラ、むづかしや問答無益」と大きく高く「一ツ人も通すこと罷りならぬ」と前の方からクルリと体を回して元の座へ戻るとツイと足を引いて束に辨慶首を心持右に傾げ尻目に富樫の後姿を見送る如に立つた此の前後の氣合はシツクリさ合つて寸分の隙もなく如何な名人が演つても此所の氣合思入れ此れ以上ある可らず、夫れから次の「珠數サラ〜と押し揉んだり」で唄が切れると富樫の「…勸進帳を遊ばされ候へ、これにて聽聞」一調子張つて「仕らん」を受けた辨慶の「何んと」ギヨツとした思入れ自然にて良く「心得……て候」も無難に、唄が「固より勸進帳のあらばこそ、笈の内より往來の卷物一巻取り出し……高らかにこそ讀み上げたり」で切れると「うーれ、つら〜惟れば」と尻上りに下方の低ひ鼓の音と靜かな掛聲とが絡む富樫はソロ〜立上つて腰を落し氣味にジリ〜と詰め寄る辨慶の聲は續く「牛死長夜の長き夢、驚かすべき」で富樫の詰め寄るに氣付いて突き出して居た卷物を右手を伸ばし左手を折つて抱ね込んで「驚かすべき人もなし」と大きく踏舞臺をトンと踏んで足を束に正しく上手に向つて卷物の裏を富樫の方へ向け前半は緩く後半は急に讀み終る唄の「天も響けと讀上げたり」で卷物を右の腰のあたりに下げて油斷の無い眼配りで卷き右に乾度握つて乳のあたりへ左手の指に珠數を絡めて是れ乳のあたり束に立つて不動明王の尊容に型どる。問答に移つてからの呼吸も能く合つた併し辱い樣だが長太郎の思入れは表情が餘りに露骨に大膽過ぎたと云ふ事を申す、奥山の辨慶達者なものだ、が達者に委せて動き過ぎる嫌の僕には、夫れから唄にすると此所がに入つてから特に然う思はれた、素人と持たれた「ついに泣かぬ辨慶も一期の涙ぞ殊勝なる」から全然グツとた、組さん達前晩のた疲もあつたらう無理もガアせん、三太は舞臺の上で遊んで居る氣乘りが爲なかつたらしい、茲に於て困つたのは辨慶だらう、辨慶の物語り「かたしく隙も波の上、或る時は船に浮び風波に身を任し」も鮮に「立ち來る音や須磨・明石」相方チンチリンチンチレチンテンの見得も可かりし、此の間に後背幕が上ると須磨明石の書き割り、舞の内も長太郎に奥山にも油斷なく、とく〜立てやの仕科が少し濃厚に過ぎたる丈けにて通じて綺麗に演じられた、終りに名事劇の兩方に望むは一つ一層の努力を以てモ少し俗者の勵けぬ如く劇壇を改良せられんことなり、敢評終り（渡〃生）

●演藝だより

●壽座　非常の好人氣を博したる片岡松之助一行も愈々七月二日を以て當地打ち揚げ直ちに内地へ引き返す事に決定したり清國大連及び朝鮮各地より申込みありしも内地各劇場との先約日限切迫したるを以てなりと而して當地に於ける向ふ三日間の狂言は各團体の御好みに依り義士劇第一回第二回と引き續き開演すべしと云ふ好劇家たるもの、見落すべからざるものなり三十日は「大序より山科閑居迄」十六場幕なしにて重なる配役左の如し

大石内藏之助、萱野三平、神野内匠頭（松之助）吉良上野、松十郎、前野平内、岡崎八十衞門（奥山）桃井若狹之助、片岡源吾右衞門（邪雀）赤阪吉右衞門（長太郎）高島太夫（右衞門）潮田又之丞（卯左衞門）

●浪花館　合併演藝會三十日の演し物　百人坊主（枝輔）忍寄戀（枝〆吉）鮹芝居（枝三郎）崇禪寺馬場（圓三）替り目（芝鶴）西郷當州、駒瀬、無筆の侍（圓）、芝濱の財布（柳丈）音曲くらべ（ジヨンペール）

仁川港出入船舶
●大有丸　三十日大阪へ向出港

營業案内